

植調協会だより

日時：平成13年9月12日（水）、10:00～17:00

場所：植調会館

〒110-0016

東京都台東区台東1-26-6

TEL 03-3832-4188（代）

◎ 会議開催日程お知らせ

- ・平成12年度冬作関係（麦類・いぐさ・水稲刈跡）除草剤・生育調節剤試験成績検討会

編集後記

五穀が見直されているそうである。

五穀といってもピンと来ない世代が多くなっているが、一説にはイネ、キビ、アワ、ムギ、マメとされている。（一説というのは麻、モチアワ、ヒエ、などをいれている説もある）

昭和の初期まで、山深い山村では、米は作れず、わずかの畑でキビ、アワ、ヒエなどを作りそれを主食としていた。従って米の飯は正月か盆ぐらいしか食べられなかった。この頃の昔話に、病人に、竹筒に米を入れて耳元で振ると、米のご飯が食べられると病気の人が元気になったという話がある。山村の人達にとっては、これ程までに米への憧れがあった。また、戦後の食糧不足を経験した人達にとっては、ヒエ、アワ飯には苦い思いが蘇り、銀シャリと呼ばれた米のご飯への羨望の思い出がある。

ところが、最近ダイエット食品、長生きの健康食品として、カロリーが少なく、各種ミネラル分を多く含むというふれ込みで、ヒエやアワ、キビ、ヒユなどを混ぜた、混ぜご飯がブームを呼んでいるそうである。特にこのブームは若い人達に多く、60才を越える世代では貧困の思い出につながるかと敬遠されているとのこと。時代の移り変わりを感じさせる話である。

ヒエ、アワ飯もいいが、今年は暑い夏のお蔭で豊作が予想されている。米飯はアメリカでも健康食品として見直されている時代、ミズホの国と言われる日本国の人達は、もっと米に愛着をもって米の消費を拡大し、日本の農業を守ってもらいたいと思うのは、編集子のひがみだろうか。

①

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188（代）

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

平成13年7月発行
植調第35巻第4号

定価420円（送料270円）
（本体400円、消費税20円）

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 所 (有)